Clumpy銀河とclumpの性質

但木謙一、児玉忠恭、 田中壱、小山佑世(国立天文台)、 林将央(東大)、嶋川理澄(総研大)

内容 1. z>2のclump銀河とその性質 2. clump migrationとtidal disruption

内容

1. z>2のclump銀河とその性質

2. clump migrationとtidal disruption

Clumpy銀河 (clump cluster)

clumpy銀河のHST画像

clumpの星質量



Elmegreen+09

MAHALO-Subaru project (PI: T. Kodama)

SXDF-UDS-CADELS field



Filter	Instrument	$m_{5\sigma,AB}$
u	$\rm CFHT/MegaCam$	27.68
B	Subaru/Suprime-Cam	28.38
V	Subaru/Suprime-Cam	28.01
R_c	Subaru/Suprime-Cam	27.78
i'	Subaru/Suprime-Cam	27.69
z'	Subaru/Suprime-Cam	26.67
Y	VLT/HAWK-I	26.69
K_s	VLT/HAWK-I	25.92
J	UKIRT/WFCAM	25.63
H	UKIRT/WFCAM	24.76
K	UKIRT/WFCAM	25.39
$3.6 \mu { m m}$	Spitzer/IRAC	24.72
$4.5 \mu \mathrm{m}$	Spitzer/IRAC	24.61



銀河の活動が最も激しいz~2の時代に着目

Sample selection



モチベーション:星形成銀河の形態を調べる

Hα flux-limitedなサンプルがベスト

clump銀河がどの程度一般的な種族が知ることができる



Clump or Merger ?





2つの可能性

 smoothなgas streamによって円盤はガスリッチ になり、重力不安定性によって形成された(内的要因)
 clumpyなstreamまたはmerger(外的要員)

Clumpy銀河の性質



Color gradient of clumps



銀河中心に近いクランプの方が外側のクランプに比べて赤い色をしている

1. old & dusty starburst
 2. old & quiescent

Clumpy銀河の性質



Dusty star-forming clump



赤いクランプでダスティーな星形成をしている可能性が高い

Dusty star-forming clump



まとめ

massiveなclumpy銀河の中心で 激しい星形成が起きている → バルジを作っている?





す ば る 次 世代 GLAO



GLAOは0.2"の分解能を達成

(WFC3と同程度)

GLAO+NB filterの組み合わせが 最も競争力のある観測装置となる





内容

1. z>2のclump銀河とその性質

2. clump migrationとtidal disruption

Clumpy銀河は円盤銀河になるのか?

Cappellari+11

Clumpy銀河は円盤銀河になるのか?

赤いクランプを持つ**clumpy**銀河は 円盤銀河というよりは巨大楕円銀河へと進化するだろう (実際、銀河の中心で原始バルジ的なものがすでに存在)

Clump migration

銀河の中心で激しい星形成を起こすにはガスを銀河中心に運ぶ機構が必要である

Genel+12

clump migrationシナリオの都合の良い点

1. 星を銀河中心に運ぶ(直接的なバルジ形成)

2. ガスを銀河中心に運ぶ(銀河中心での激しい星形成・BHへのガス供給)

clump migrationシナリオを観測的に検証する必要がある!

slow rotatorとfast rotator

rotation-

- slow rotator (classical bulge) merger起源
- fast rotator (pseudo bulge)

internal evolution?

Compact quiescent galaxy

slow rotator (classical bulge)の起源?

楕円銀河の形成シナリオ

Tadaki+

/銀河は円盤銀河になるのか?

Clumpy銀河は円盤銀河になるのか?

. . .

•

Clumpは銀河中心まで落ちることができるのか?

Genel+12

stellar feedbackによってクランプは壊れる

clumpのlifetimeを観測的に見積もることが重要

クランプは円盤形成にも寄与するのか?

クランプ位置でのポテンシャルの勾配が大きければ、クランプの一部は潮汐力によって破壊されてしまう。壊されたクランプの星成分は円盤の構成要素となる。

clump migration/tidal disruptionを検証するには

どういう物理量に制限を与えれば良いか?

tidal strippingによるクランプ破壊を円盤のクランプ以外での星形成と比較 することで、クランプ破壊による円盤形成への寄与を調べることが可能

クランプの散逸時間とクランプの典型的なmigration timescale (200-300 Myr)と比較することで、クランプ移動の検証が可能

$$\Sigma \frac{M_{\rm star} \times f_{\rm tidal}}{\tau_{\rm tidal}} > {\rm SFR}_{\rm disk}$$

$$M_{\rm total} / \left(\frac{dM_{\rm total}}{dt} \right) > \tau_{\rm mig}$$

クランプのlifetime

TMT・ALMAを用いてz>2の小質量clumpy銀河のkinematicsを明らかにする必要がある

近傍LIRGのPaa IFU observation

既存の装置やnuMOIRCSで何かできないか?

z~0.1 clumpy LIRGをターゲットにした面分光観測は、

銀河の形態獲得シナリオに対して重要な制限を与えることが可能!

わざわざクランプにこだわらなくても・・・

- ・z>2の時代はclumpyな形態をした銀河が多い
- ・これらのclumpが形態獲得に何らかの形で寄与したと考えるのは自然
- ・clumpが銀河中心に落ち込んで疑似バルジになるという予測がある
- ・clumpが銀河円盤で壊れてディスクになるという予測もある
- ・これらの予測の観測的な検証は難しい
- ・模擬high-z SFGとして近傍LIRGのIFUならどうだろうか?
- ・将来的にはTMTでz>2のclumpy銀河に対してsub-kpc分解能でIFUを行う
- ・もしかすると2つの銀河が合体しているのが、分解能が悪いせいで

rotationに見えているというオチかもしれない